

第3次生涯学習推進計画の実施状況に関する調査結果 その1

■調査目的

生涯学習事業の拠点施設となるコミュニティセンターや生涯学習センター等を対象に具体的な取り組みや課題など進捗状況を調査し、次期生涯学習推進計画の素案策定の資料とする。

■調査先

<コミュニティセンター>

- ・市内コミュニティセンター17カ所

<社会教育施設>

- ・丸亀市生涯学習センター
- ・飯山総合学習センター
- ・飯山東小川公民館
- ・丸亀市立中央図書館

■調査方法

- ① アンケート用紙を配布し、ファックスまたはメールで回答
…コミュニティセンター17カ所

■調査期間

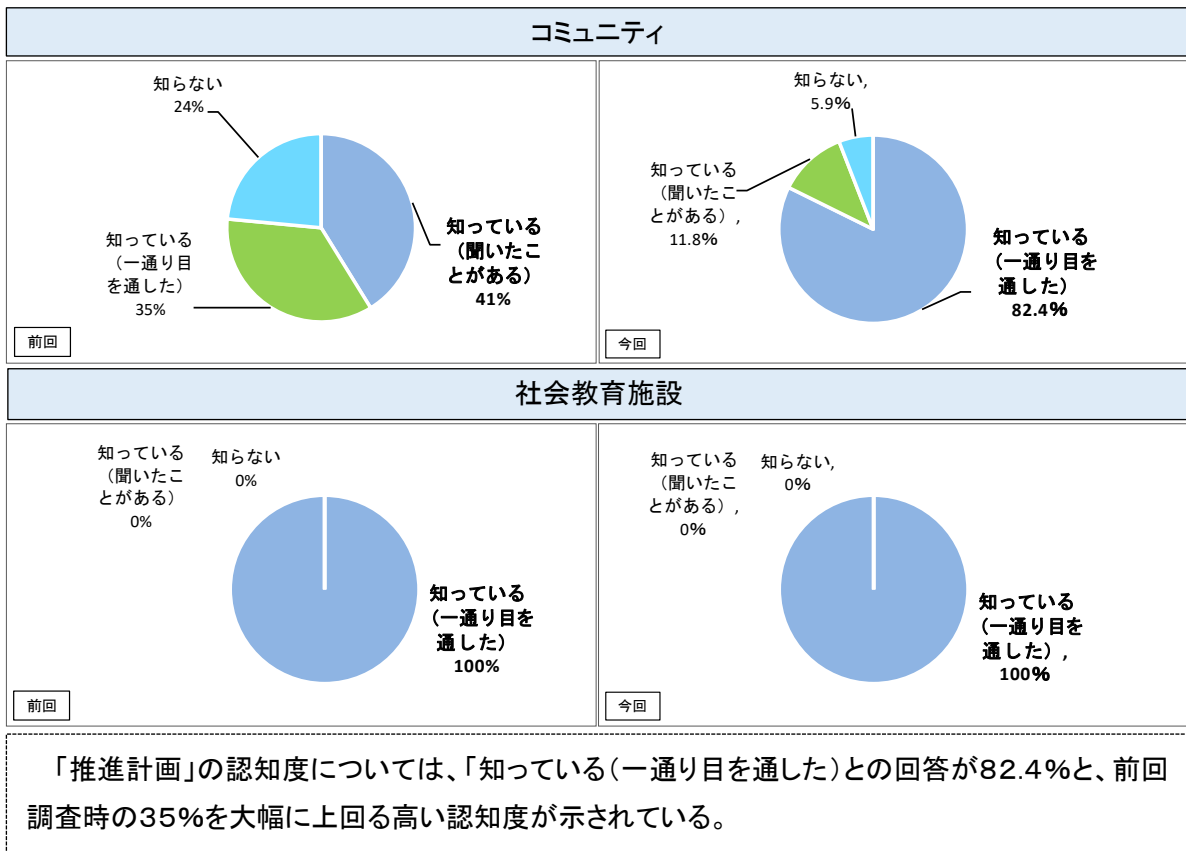
令和3年5月14日～6月11日

■回収状況

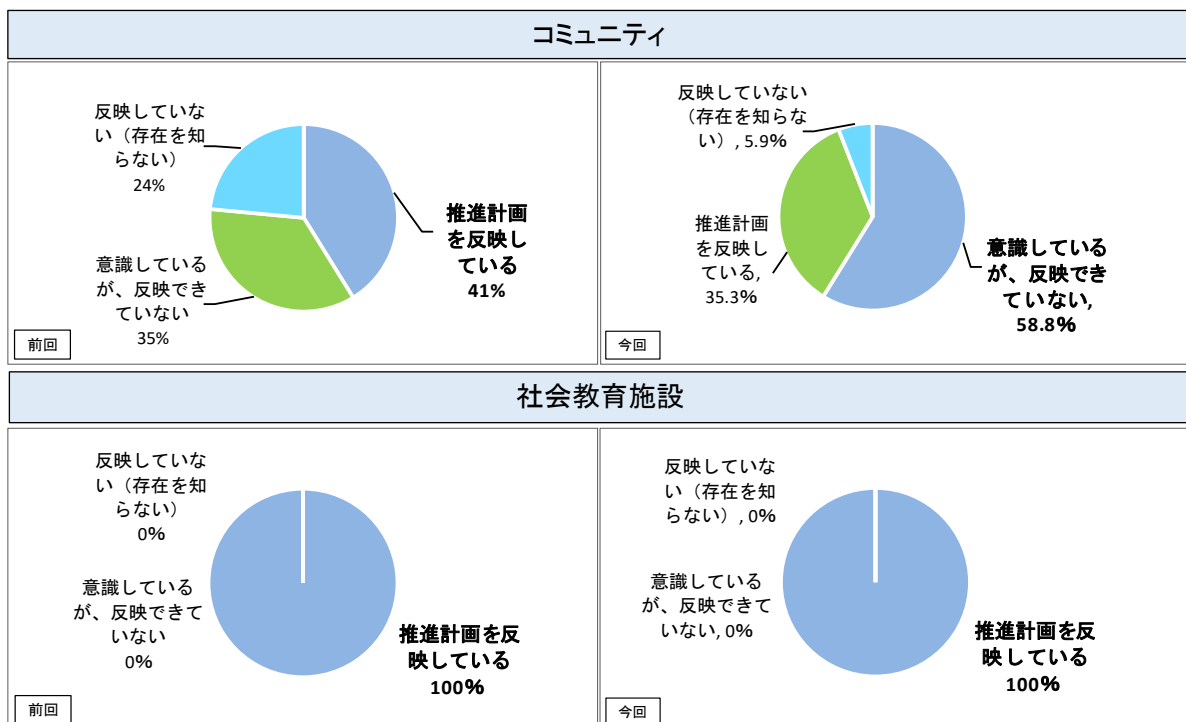
- ・市内コミュニティセンター17カ所(100%)
- ・社会教育施設(4施設)(100%)

<「丸亀市生涯学習推進計画」について>

問1. 平成29年度に「第3次丸亀市生涯学習推進計画」(平成29年～令和3年度計画)が策定されたことをご存知ですか。



問2. 「推進計画」を意識しながら、「まちづくり計画」や各種事業を計画していますか。



コミュニティのまちづくり計画や各種事業に「推進計画を反映している」との回答は35.3%と、前回調査時の41%と比べ減少したが、「意識しているが反映できていない」との回答が58.8%と前回調査時の35%から大幅に増加しており、推進計画の意識付けはほとんどのコミュニティできつつある。実際に推進計画を反映させるために、環境づくりや連携を強化していく必要がある。

※ コミュニティ…コミュニティセンター17カ所

社会教育施設…生涯学習センター(児童館除く)、飯山総合学習センター、飯山東小川公民館、図書館(中央・綾歌・飯山)

問3. 問2で1)「推進計画を反映している」と答えた方は、どのように反映したか(どの部分)をしているのか、2)「意識しているが、反映できていない」、3)「反映していない(存在を知らない)」と答えた方は、なぜ反映できないのか、具体的にお書きください。

1)と答えた方の具体的な内容・ご意見【コミュニティセンター】

- 家庭・地域・学校における連携の推進で地域学校協働本部を立ち上げて、ボランティア40名程度で地域と小学校が連携協力して事業を進めている。
- 計画の基本(1.学びのための環境づくりの推進 2.学びでつながり、学びを生かすまちづくりの推進 3.家庭・地域・学校における連携の推進)に沿って、まちづくり計画を策定している。
- 生涯学習においては「地域いきいき講座」(成人主に女性)「長寿セミナー」(高齢者)「書道教室」「こども茶会」と幅広い層に向けて学習のチャンスを提供している。又、スポーツは健康ウォークに加えてペタンクを毎月行い、年に一度は大会も開催している。学校・地域における活動を支える人材の発掘は、新たに地域創生部学校支援諸活動班を作り、学校の要望にすぐに対応できるように準備中である。
- 「人と自然が調和した住みよいまち」づくりを推進するにあたり、一人ひとりができるボランティア活動や時事・地域の問題等の知識を得る学習機会、生涯学習団体の成果発表の機会、青少年の健全育成ボランティア活動等を継続することになっている。
- まちづくり計画は、市の総合計画と関連付けたものとしており、行政の視点と地域の視点をあわせた計画とした。
- 生涯学習に関する啓発及び情報提供と学習施設の有効利用。
- 健康づくりへの意識と地域資源を生かした生涯スポーツの推進。
- 学びを通じた人や地域等のネットワークづくり。
- 家庭・地域・学校の連携による地域教育力の充実。

1)と答えた方の具体的な内容・ご意見【社会教育施設】

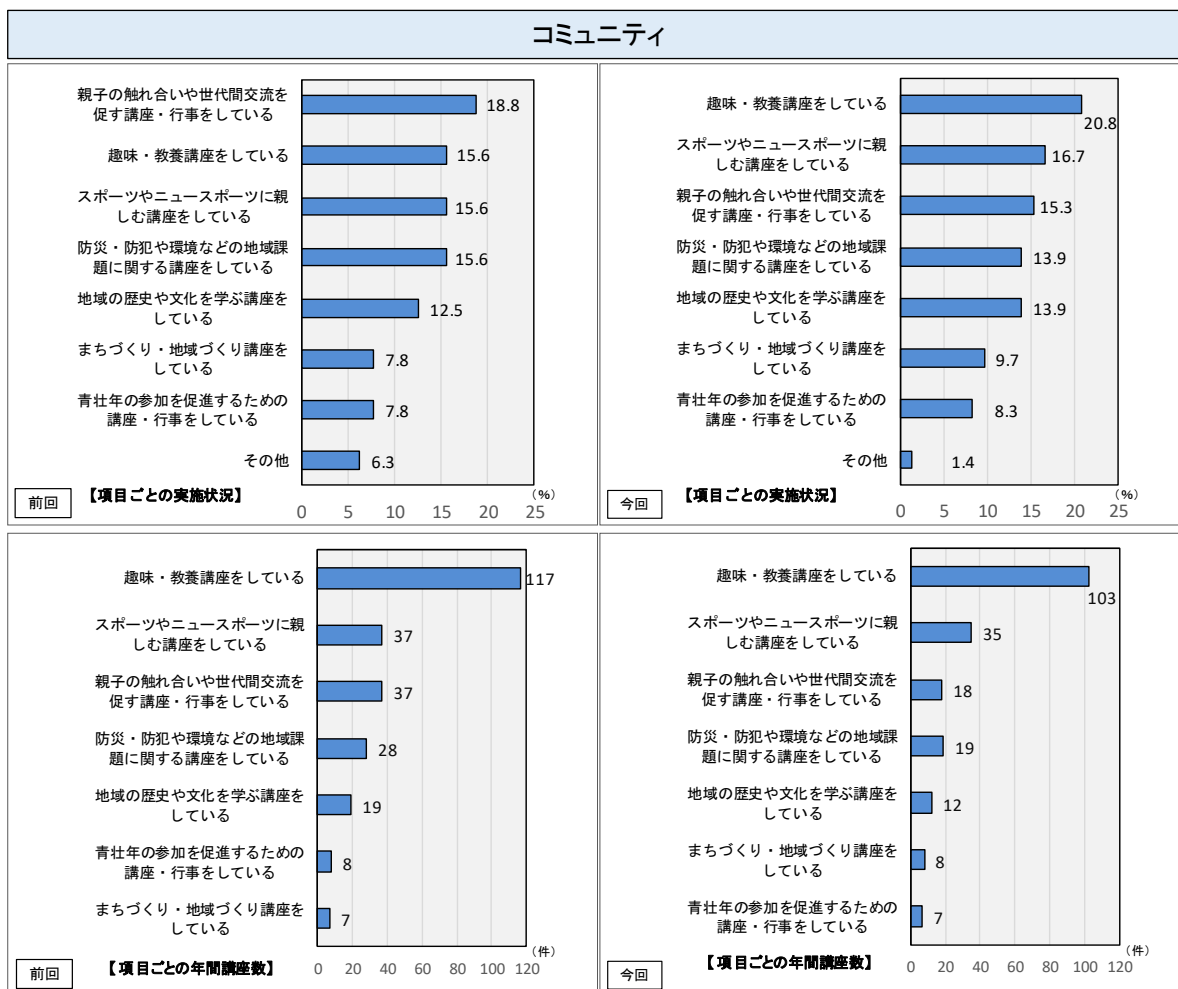
- 地域との連携によるボランティア活動(コミュニティ、生涯学習クラブ、高校、中学校、自治会)。
- 生涯学習クラブ活動発表の場を推進(児童センター行事)。
- 児童センター行事に反映(幼児教室、子ども教室、キャロット講座、中高生講座、地域交流、相談業務等、各種講座:香川高専、香川大学、さぬきこどもの国、香川赤十字等)。
- 生涯学習講座の実施。
- 学習活動の拠点として資料収集・提供を行い、ライフステージに合わせた学習支援を行うほか、ボランティア団体等と連携して行事を開催している。

2)3)と答えた方の内容・ご意見

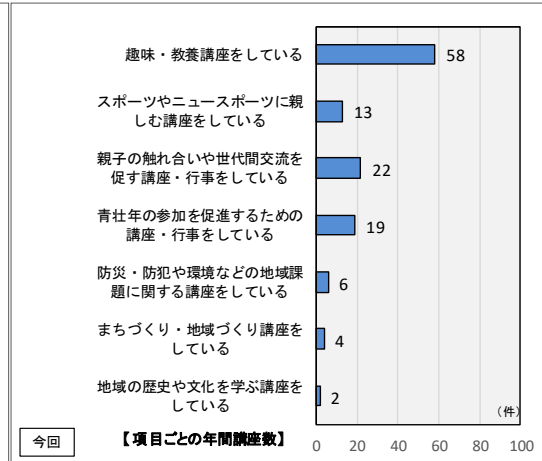
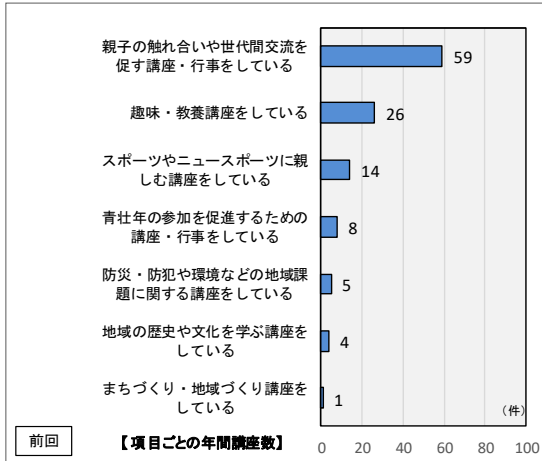
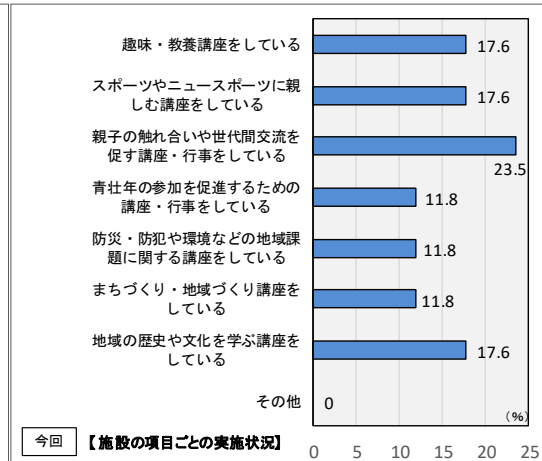
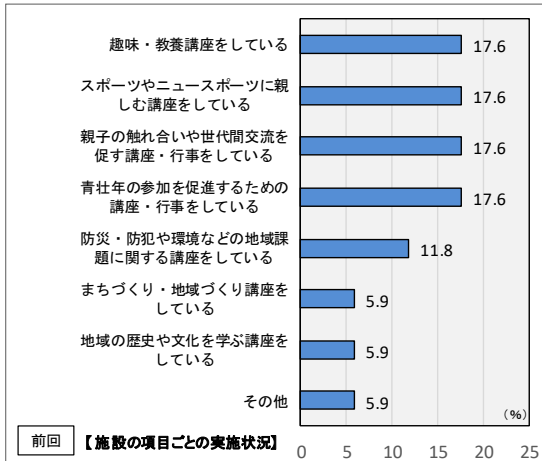
- 小学校区とコミュニティ区域が完全に一致していないこと。
- 令和3年4月からスタートしているコミュニティ・スクールに関して、地域との連携の具体的行動項目がハッキリ決まっていない。小学校に対してどのような協力ができるかという課題は、現在まちづくり委員会を開催して協議中。
- 今までの事業計画が生涯学習本来の意味・目的と合致していない。
- 地域住民の方の希望する講座ができているかどうか、また引きこもっている方にどうやって参加してもらうかが難しい。
- 青色パトロールによる「子どもの見守り活動」やこども園での「ふるさと遊び」の指導などを実施しているが、ボランティア活動のリーダーが不足しているため事業を増やしていくことが難しい。
- まちづくり計画を策定中。推進計画を考慮しつつ計画に取り組んでいる。
- コミュニティ自体の人数が少なく、高齢化が進んでいることもあり受講者への推進が難しい。
- 島しょ部という地理的要因から講師の確保も難しいといった課題もある。
- 第3次生涯学習推進計画が年々引き継がれてなかった。
- 存在を知らないため反映できていない。
- 人手不足のため、現在行っている事業を維持するのに精一杯の状態であるため。

<学習機会について>

問4. 貴コミュニティでは、下記のような学習講座の充実が図られていますか。(該当するものすべてに○を)



社会教育施設

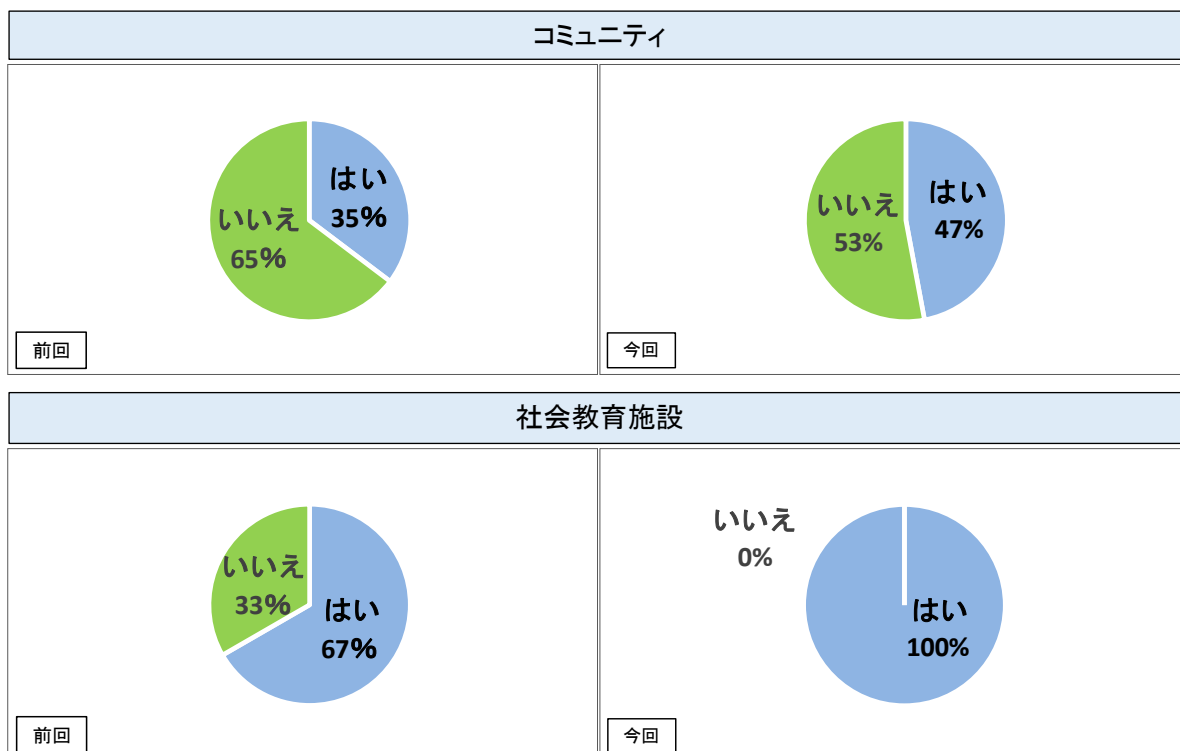


その他自由記述について

○認知症予防の体操教室等

令和2年度は、新型コロナウイルスの影響で全体の講座数は減少した。また、高齢化の影響で、生涯学習クラブの数が減少しており、それに伴い講座数も減少傾向にある。対策として、幅広い層が参加できるようなオンラインを活用した講座や、生涯学習クラブ会員の募集を行う必要がある。

問5. 地域の方が、学んだ成果をリーダーや指導者として活かす仕組みや場がありますか。または、リーダーや指導者等の人材を育成・発掘していますか。



「はい」と答えた方の具体策について

コミュニティ

- ボランティアの人数も少なく、現在ではリーダーや指導者となる人材は発掘できていない。ボランティアの中からリーダーの業務を経験していただき指導者となってもらう。
- 木工教室の指導者として研修したことで、次年度にその技術を生かすことができている。
- 夏休みを利用して「子ども茶道」や「子ども太鼓」などを単発的に実施している。事務局の人材も含めて人材不足のため、長期継続は難しい。
- 講座に参加した方で、各分野において優れた方を各部会にお誘いし、地域づくりの担い手として活躍していただけるようお願いしている。
- 地域防災講座で学んだ会員は、小学校・中学校・高等学校での実践研修の場で指導者として取り組んでいる。
- 2030年問題に対して、コミュニティ全体で高齢者が生活する中で不便を解消する手助けを行うボランティア組織、会員約60名で令和3年度から活動している。困りごと会員や手助け協力員は随時募集している。
- 地域コーディネーター養成塾での知識を活かして、地域学校協働本部の立ち上げに取り組んでいる。

社会教育施設

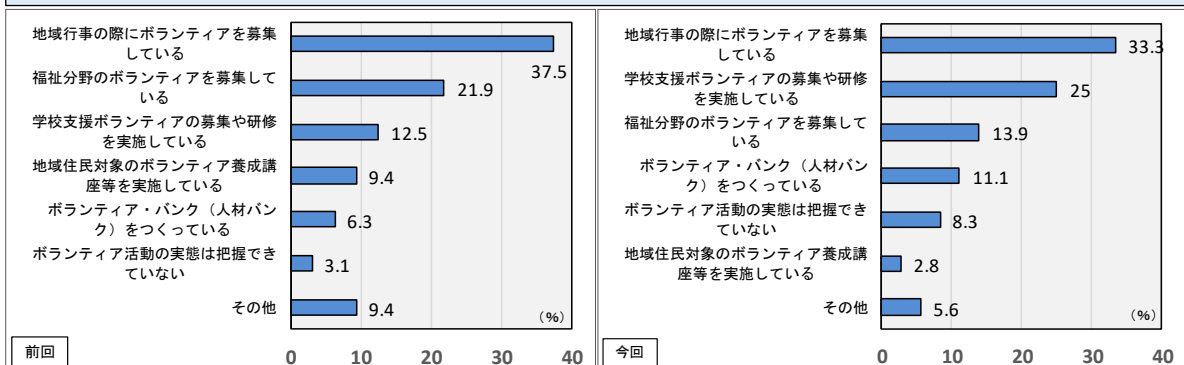
- ボランティア活動で学んだ成果を講師として実践。
高校生(夏休み期間中のボランティア活動)。
- 研修生(香川短期大学)の受け入れ。
研修期間で学んだ成果を講師として実践。
- NPO団体と連携した講座を開催しており、これまでの成果を基に講師を務めてもらうこともある。
- 時代の変遷に添い、新たに講師を採用している。

学んだ成果をリーダーや指導者として活かす仕組みや場所は増えてきているが、コミュニティではまだ過半数に達していないのが現状である。優れた人材に対し積極的に声掛けを行う日々の積み重ねが重要である。

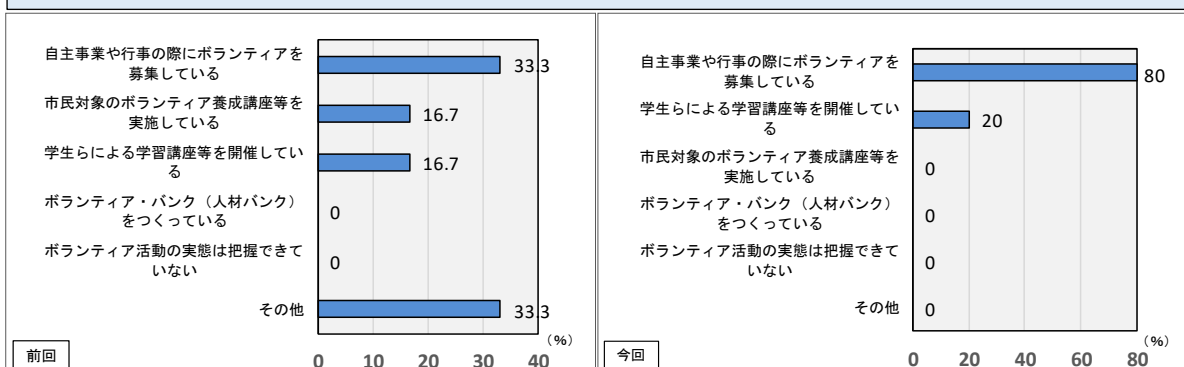
＜生涯学習とボランティアについて＞

問6. 生涯学習の成果を活用したボランティアが各地で見られるようになってきました。下記のようなボランティアの推進を、貴コミュニティで実施していたり、把握していたりしますか。(該当するものすべてに○を)

コミュニティ

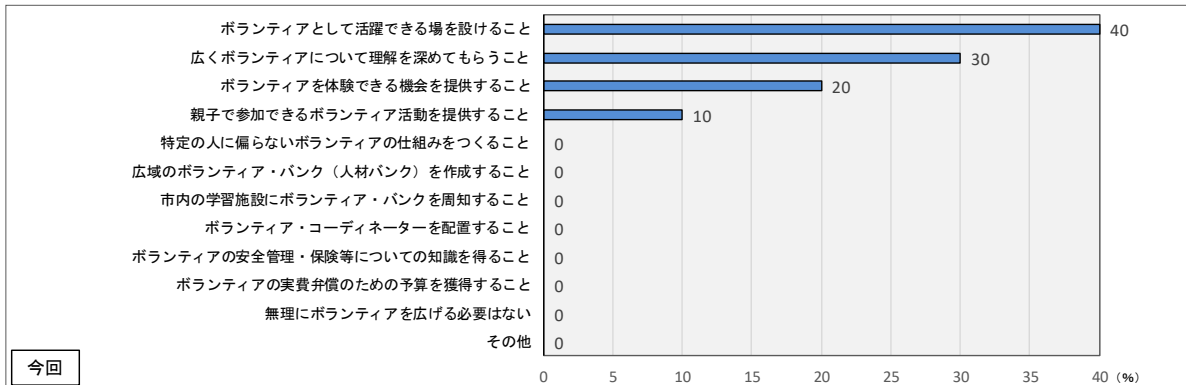
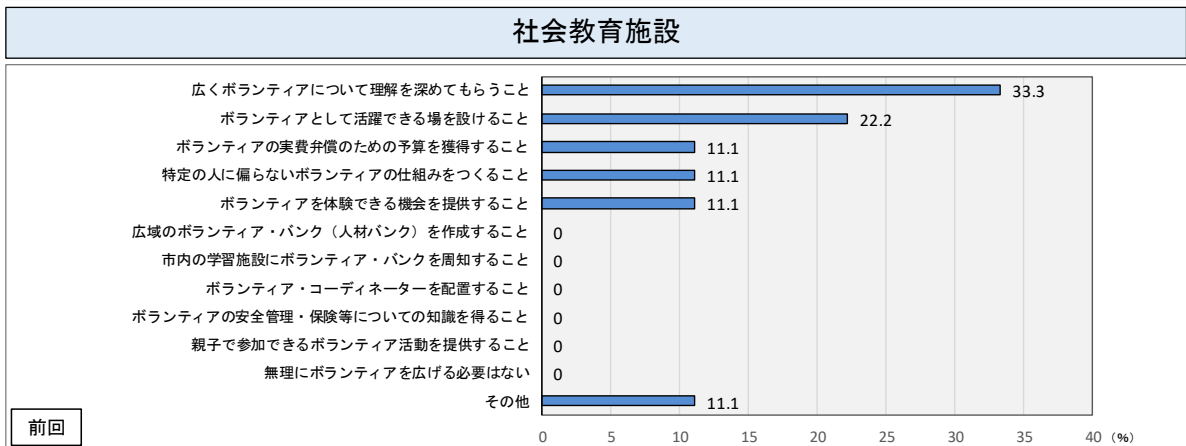
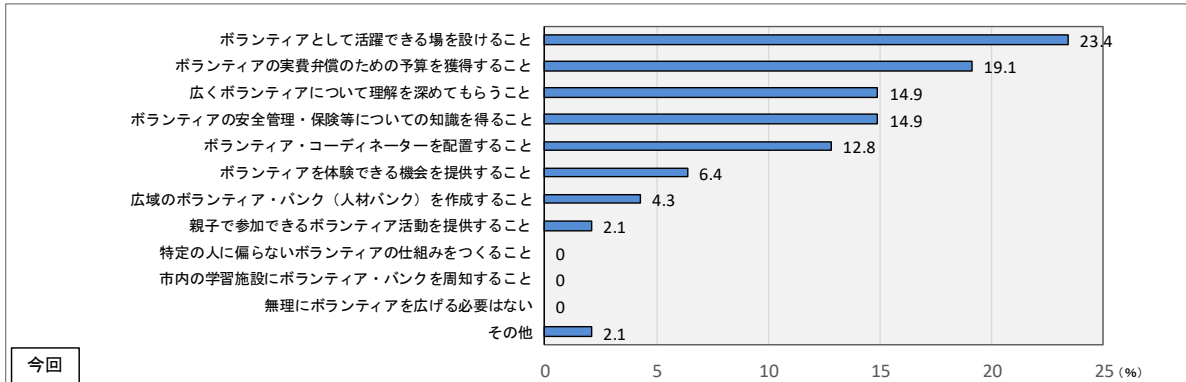
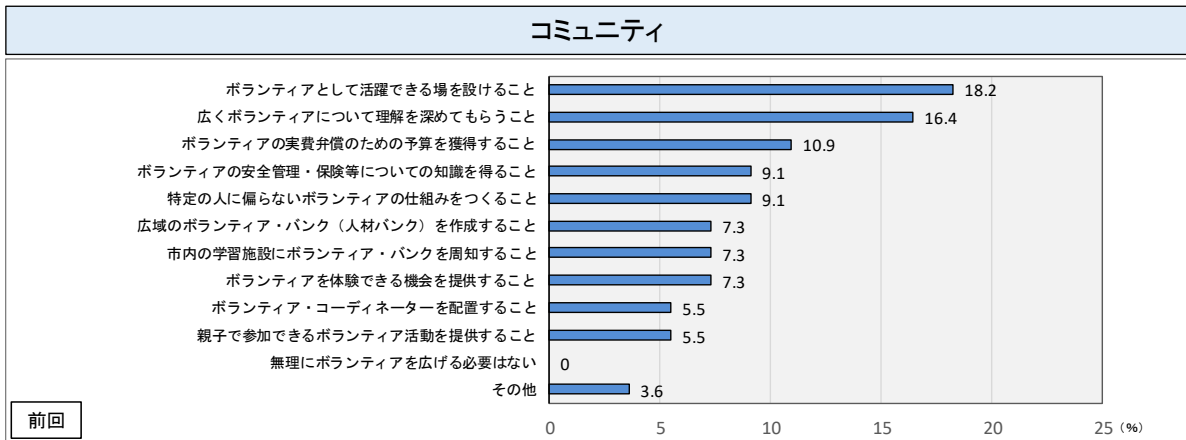


社会教育施設



「行事の際にボランティアを募集している」という回答が、コミュニティ、社会教育施設ともに最多の回答であった。コミュニティでは、「学校支援ボランティアの募集や研修を実施している」という回答が、前回調査時から約2倍に増加した。学校支援に対する意識が高まってきている。

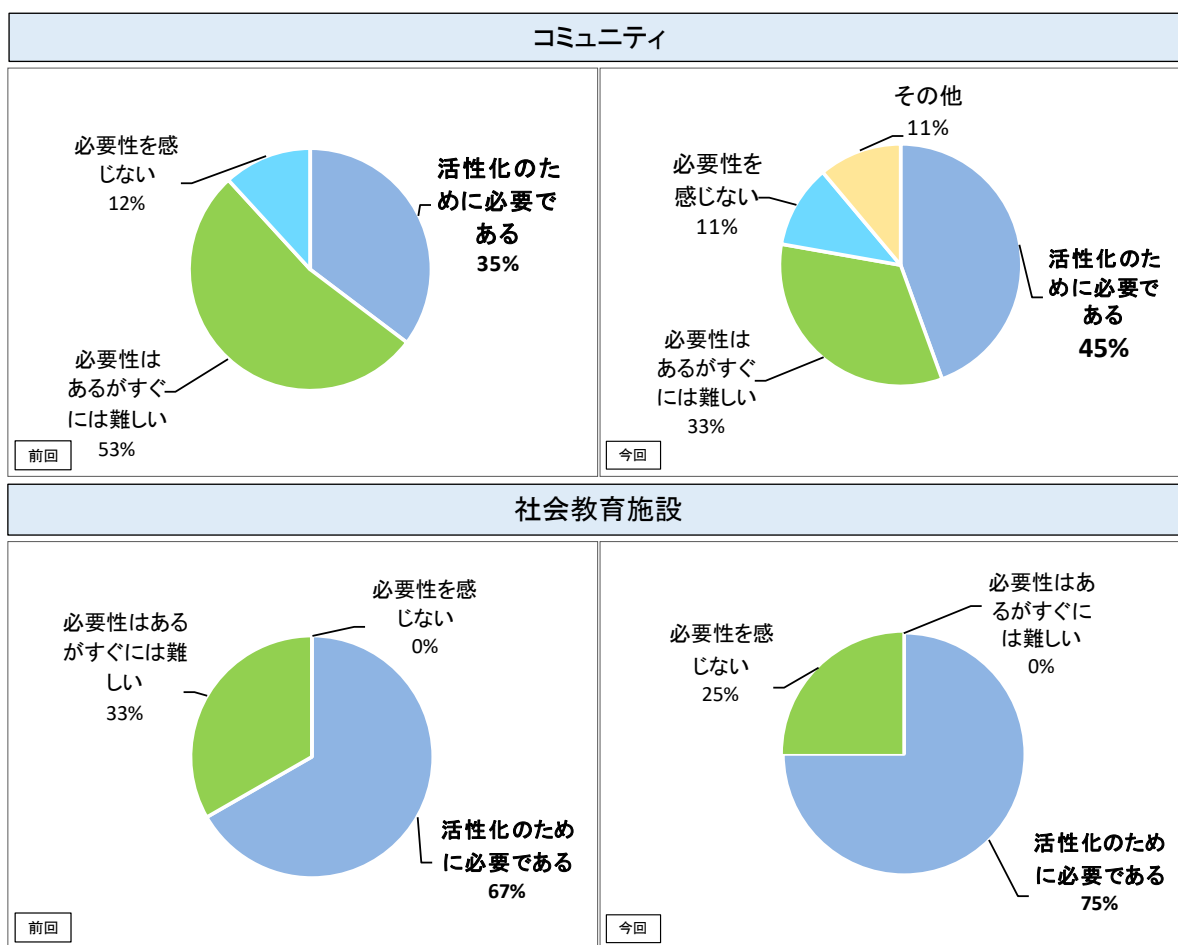
問7. 地域のボランティアの裾野を広げていくために必要なことは何でしょうか。(該当するもの上位3つに○を)



コミュニティ・社会教育施設ともに、「ボランティアとして活躍できる場所を設けること」が最多の回答であり、前回よりも増加していた。ボランティアとして活動したい人は多くいるが実際に活動できる場がないという問題を受けて、居場所づくりに対する意識が高まってきつつある。

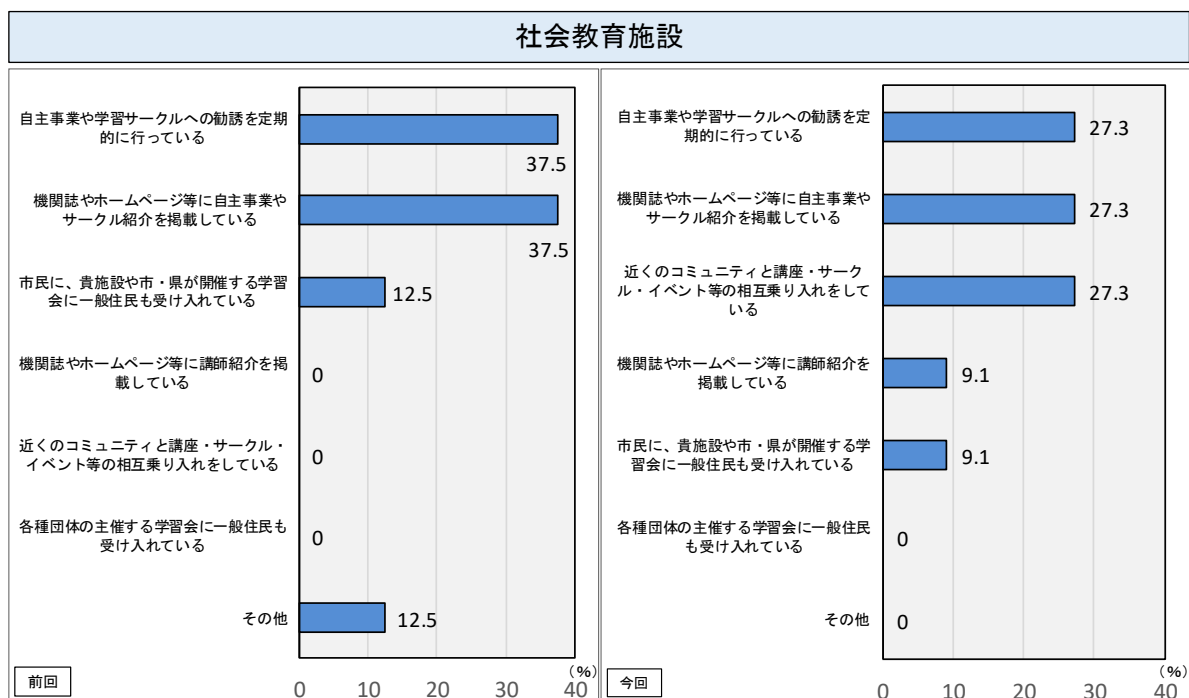
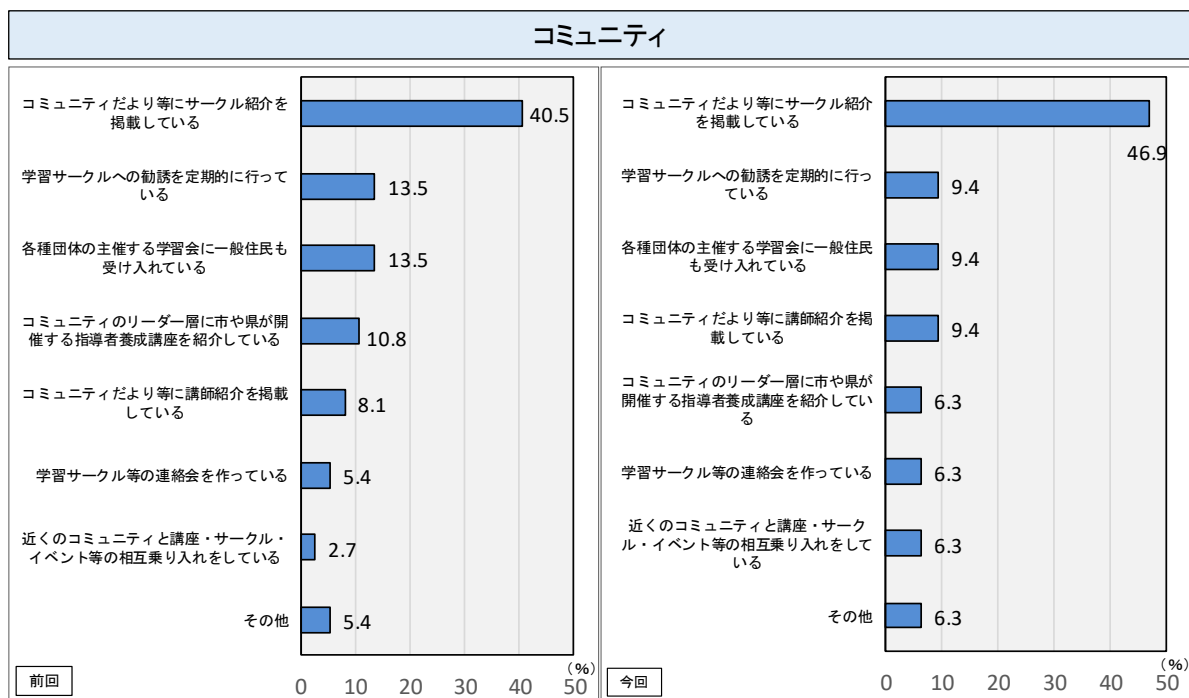
<生涯学習とネットワークについて>

問8. 学習活動の横のつながり(ネットワーク)をつくることについて、貴コミュニティでは、どうお考えですか。



前回調査時は「活性化のために必要である」が35%だったのに対し今回の調査では45%と、つながり(ネットワーク)の必要性を感じているコミュニティが増えている。

問9. 学習活動の活性化のために、下記のような取組をしていますか。(該当するものすべてに○を)



「近くのコミュニティとの講座・サークル・イベント等の相互乗り入れをしている」という回答が前回より増加しており、他の社会教育施設との連携が強まっている傾向にある。限られた予算と人員の中で、講座等の充実を図っていかなければならない。

<社会教育団体や学校との連携について>

問10. 学校と連携し、取り組んでいる特徴的な事例や、今後取り組もうと考えている事例があれば教えてください。

現在取り組んでいること【コミュニティセンター】
<ul style="list-style-type: none">○地域学校協働本部での活動。○昨年12月に子ども達見守隊を結成し、小学校児童の登下校時に立哨している。○青少年健全育成研修会を開催し、小学校・青少年育成センター・丸亀警察・コミュニティ・PTAが一同に集まり、地域の現状や問題を協議している。○家庭科ミシン補助。○地域学校協働本部が学校支援部としてコミュニティの1組織となっているため学校支援活動に広く人材を募ることができる。○コミュニティの役員が学校運営協議会に委員として参画し、家庭・地域・学校における連携を目指している。○3年生の授業の1つである「コミュニティセンターの仕事」の講師を務めている。○青色パトロールによる子どもの見守り。○運動会・サツマイモ栽培・昔遊び・放課後子ども教室・読み聞かせ・ミシン作業補助・クラブ活動などに老人会、学校支援ボランティアなどが参加している。○婦人会活動の灯が消えないよう、法の郷女性部を発足させ、合同会を開催し、役員選出、活動の継続性により女性の活躍社会を行う。○防災学習はきめ細やかなカリキュラムを設定して大人に負けないスキルUPを図っている。○学校安全パトロール、伝承遊び体験、新1年生スタートボランティア、学校周辺清掃ボランティア、放課後学習ボランティア、図書ボランティア、ミシンボランティア、学校花壇の花植え、ウサギ小屋の修繕、あいさつ運動、北小5年福祉体験ボランティア、マスクキットづくりボランティア、各教室テレビカバー作りボランティア、保育所での遊具、ベランダのペンキ塗りボランティア等の要望を受けて調整派遣。○夏季休業中における、ボランティアによる子どもたちの体験学習。○地域コーディネーターによる学校授業への協力。○運動会や人権研修などを合同で行っている。○「クリックマン」を中心とした地域交流、見守り活動。○学習支援、環境整備。○夏休み絵画教室、さつまいも、バケツ稲、伝承遊び、ドッチビー教室、交通安全教室、天体・星観測(令和2年度はコロナ禍で大半の取組が未実施)。○学校支援(昔遊び・野菜作り・地域探検・米作り、防災学習、戦時下の生活体験談)。

現在取り組んでいること【社会教育施設】
<ul style="list-style-type: none">○研修生(短期大学)の受け入れ。○地域の高校、中学校と連携したボランティア活動の推進。○高校生のボランティア企画による行事の開催。○香川高専(科学遊び)、香川大学(文化研究会)。○学校への本の貸出し(回送便を設けて送付・回収)。○学校図書館司書の会議参加(研修の講師も務める)。

今後取り組もうと考えていること【コミュニティセンター】
<ul style="list-style-type: none"> ○学校の要望に応じて考える。 ○地域全体で登下校を見守り、児童、生徒を交通事故や不審者から守る。 ○学校はゆとり教育実施中のため、コミュニティのために授業の時間を割くことができない。コミュニティが子どもと接する場合は、夏休みを利用しコミュニティが単独で実施しなければならない。 ○コミュニティセンターを、放課後の遊び場(宿題をする)など集まれる場所にしたい。 ○地域学校協働本部を立ち上げ、女性部員を勧誘し、ボランティア活動の中心になってもらう。 ○森の再生事業の中で森や緑の重要性を体験してもらうことを検討しています。 ○元気で人生経験豊富な高齢者が地域の子もたちと心豊かな交流が行えるよう学校と連携して活動の幅を拡充したい。 ○小学校での特別講座(今年度、育成部会主催で音楽講座)を開催予定。 ○防災訓練。 ○ハザードマップ作成(防災まち歩き)。 ○学校支援ボランティアの人材バンクをつくる。 ○「第Ⅲ期まちづくり計画」(令和4年度からの5か年)で検討する。

今後取り組もうと考えていること【社会教育施設】
<ul style="list-style-type: none"> ○地域の学校による行事企画の推進。 ○教育支援センター友遊の児童の受け入れをしている。

問11. 他のコミュニティと連携し、取り組んでいる特長的事例や、今後取り組もうと考えている事例があれば教えてください。

現在取り組んでいること【コミュニティセンター】
<ul style="list-style-type: none"> ○持ち回り所長会を3か月に1回行い情報の共有を図っている。 ○丸亀高校の防災訓練を他コミュニティとの協力で実施している。 ○市全体で行う防災訓練の実施。 ○コミュニティ祭り等で資材の相互協力(貸し借り)をしている。 ○防災無線通信で富熊コミュニティと市危機管理課を通信網で結び、非常時の災害に備える。 ○防災の実践カリキュラムにおいてお互いに協働の立場で行っている。 ○中学校区を単位としていることから、他のコミュニティに属しているボランティアとの連携を持ちながら活動している。 ○公共施設を旧本島中学校に集約するため、移転・集約事業が終了した広島コミュニティセンターを視察し、意見交換を行った。

現在取り組んでいること【社会教育施設】
<ul style="list-style-type: none"> ○ボランティア活動(イベント時における相互支援)。 ○コミュニティ出前講座。 ○リユース図書の提供。 ○コミュニティ図書室の整理。

今後取り組もうと考えていること【コミュニティセンター】
<ul style="list-style-type: none"> ○所長会の内容の充実を図り実のあるものにしていく。 ○スタッフも協力できればもっと良くなる。 ○緑化事業(森の再生等)について検討してみたい。 ○利便性の高い施設を目指し、広島コミュニティと意見交換などを行いたい。

今後取り組もうと考えていること【社会教育施設】
<ul style="list-style-type: none"> ○地域の自治会との連携行事。

問12. 子ども会や婦人会などの社会教育関係団体やNPO等と連携し、取り組んでいる特徴的な事例や、今後取り組もうと考えている事例があれば教えてください。

現在取り組んでいること【コミュニティセンター】
<ul style="list-style-type: none"> ○夏休みのラジオ体操の実施。 ○婦人会を開催しコミュニティ婦人会として従来の役目を継続している。 ○介護予防体操、認知症予防のための集い。 ○愛育班による「子どもクリスマス会」、「百人一首」(コミュニティは会場の提供のみ)。 ○健康ウォーク・ぐるりん歩・特定外来種(オオキンケイギク)の駆除。 ○学校支援ボランティアの場を、女性活躍社会進出とマッチングさせて女性部の活性化を図る。 ○公民館機能を発揮するため、日頃の活動の成果を発表する場の提供を行っている。

現在取り組んでいること【社会教育施設】
<ul style="list-style-type: none"> ○「夏まつり」行事に「子ども会」企画ブースを設置。 ○講座の開催。

今後取り組もうと考えていること【コミュニティセンター】
<ul style="list-style-type: none"> ○敬老会の開催(婦人会→コミュニティ)。 ○地方祭への子ども会の参加。 ○婦人会の高齢化による活動停止を食い止めるため、主要な社会教育団体として女性部の活動が軌道に乗るまで大切に婦人会を守る。

今後取り組もうと考えていること【社会教育施設】
<ul style="list-style-type: none"> ○「子ども会」企画による行事の開催。 ○事業の広報活動や事業参加を依頼している。

問13. 市や公的機関と連携し、取り組んでいる特徴的な事例や、今後取り組もうと考えている事例があれば教えてください。

現在取り組んでいること【コミュニティセンター】
<ul style="list-style-type: none"> ○お城まつりへの参加。 ○チャレンジデーへの参加。 ○市民体育祭への参加。 ○香川県土木事務所と契約し、昨年度から【さわやかロード】という地域の清掃活動を コミュニティ環境部と婦人部で実施している。 ○県道204号線沿いの歩道のゴミ拾い、草抜き等。 ○食育学習(子どもと高齢者)。 ○高齢者を対象とした「健康相談」、母子を対象とした「わいわい広場」「ぐんぐんサロン」。 ○音楽広場(講師のピアノ演奏に合わせてみんなで歌う)。 ○都市公園の整備を図り、コミュニティセンターとの一体的な利用を図る。 ○森の再生事業について、都市計画課に指導してもらっている。 ○県や市の支援により、「地域で共有！」地域の力を学校教育に活かすため中学校区地域学校協働本部を核として学校関係団体と協力して教育現場の下支えを行っている。 ○放課後子ども教室(平成20年度より実施)。 ○HOTサンダルプロジェクト。 ○土器っこ広場0歳児とその家族を対象に、防災・保健・体育の講座。 ○土器川大規模水害対策ワークショップ(国交省)。 ○アダプトプログラム(国道11号線清掃)(食品容器環境美化協会)。 ○出前講座。 ○おじよもんひろば(放課後子ども教室)。
現在取り組んでいること【社会教育施設】
<ul style="list-style-type: none"> ○さぬきこどもの国との連携。 ○出前講座(遊びの宅急便)、さぬきこどもの国フェスティバル参加等相互交流。 ○まるがめ子育てフェスタ参加。 ○丸亀市民学級の実施。 ○各課の取り組み等に応じたコラボ展示(人権課・福祉課・資料館等)。
今後取り組もうと考えていること【コミュニティセンター】
<ul style="list-style-type: none"> ○生涯学習の講習会。 ○買い物支援の実施。 ○体操(親子)。 ○憩いの場づくり、カフェ的なもの。 ○文化講座(くらしのセミナー:スマートフードライフ)。 ○公園まつり・花壇の地域開放・花の栽培管理の募集。 ○公園内作品展示場設置・子ども作品・地域の人々の作品展示による文化の活性化。 ○HOTサンダルプロジェクトの継続実施(コロナ禍でのオンライン対応などを検討)。
今後取り組もうと考えていること【社会教育施設】
<ul style="list-style-type: none"> ○さぬきこどもの国研修による職員のスキルアップ。 ○連携による魅力ある行事の企画。 ○市内移住の芸術家との事業、子育てに関する事業。 ○こども園等と連携した事業。

問14. その他の団体と連携し、または、貴コミュニティ独自で取り組んでいる特徴的な事例や、今後取り組もうと考えている事例があれば教えてください。

現在取り組んでいること【コミュニティセンター】
<ul style="list-style-type: none"> ○善行表彰の推進。 ○毎年小学3年生を対象に、コミュニティセンターで【八朔だんご馬づくり】見学会を開催し伝統文化の伝承に繋げている。 ○人と人がつながる地域づくり。 ○あいさつを交わすことで知り合いが増えて安心して暮らせる地域。 ○おはよう隊を結成して月1回あいさつ運動に取り組み、学校から地域へと広げていく。 ○夏休みに行う1泊2日の「寺子屋教室」。 ○5時から体操(午後5時からの空き時間を利用した健康体操)。 ○法の郷健康づくり推進事業は、地域内JA法勲寺支店・飯山高校・特別養護老人ホーム紅山荘と事業所の参加を得て、地域を挙げて健康づくりを推進している。 ○地域防災力向上を目指して、地域内企業や幼稚園・保育所・小学校と連携して取組の強化を図っている。 ○当地域では子ども会が途絶えていることから、ボランティア団体と連携してコミュニティで子どもの健全育成を図るために自然に触れ合いながら異年齢交流や世代間交流に取り組んでいる。 ○市内企業(三菱電機)によるCSR活動(里山・里海保全活動)。 ○防災訓練(防災士会)。 ○ふれあいいいのまつり、町民体育祭、ジョギング・ウォーキング大会、室内ペタンク大会、スポレクひろば。 ○歴史や文化に詳しい方に観光案内業務(観光ガイド)を行っていただき、島の情報を発信している。

現在取り組んでいること【社会教育施設】
<ul style="list-style-type: none"> ○相談業務(たんぼぼと共催):専任相談員による発達上の相談。 ○当財団の基金を利用した生涯学習事業。

今後取り組もうと考えていること【コミュニティセンター】
<ul style="list-style-type: none"> ○子どもたちの学びの場。世代を超えた交流の場。 ○秋の法の郷いきいきまつりにおいて、地域の農産物販売を取り入れ、地産地消の推進をする。 ○ふれあい交流室前のウッドデッキで毎月1回、農産物の販売による朝市・フリーマーケットをしている。 ○おじよもんひろば(子育て支援事業)。 ○コミュニティの文化観光部会の会員の方に新たに観光ガイドになっていただき事業の継続を目指している。

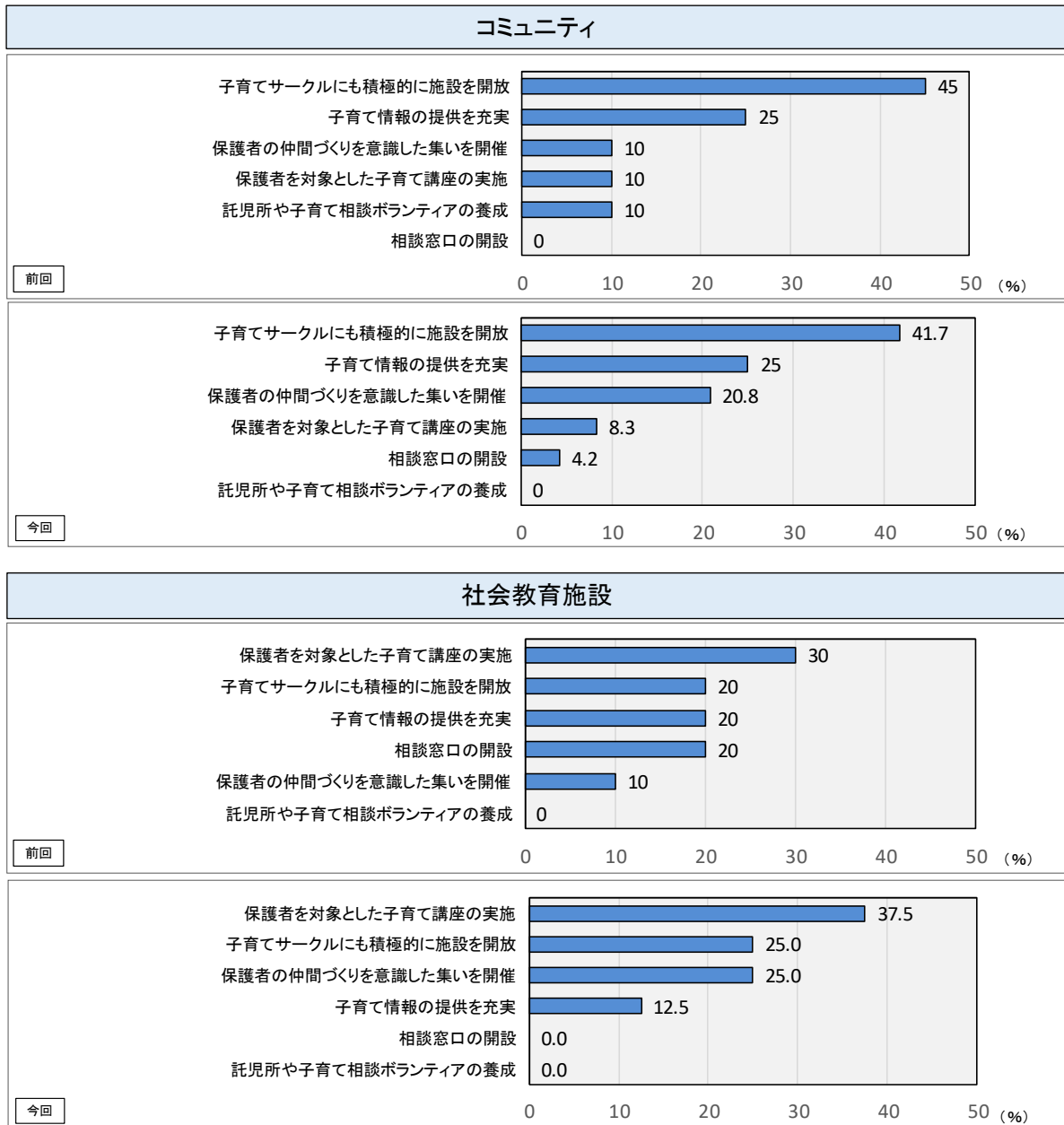
<行政との連携について>

問15. 貴コミュニティが、生涯学習活動を展開するうえで、市に望むことや市と連携して進めていくための具体的なご意見やアイデアがありましたらご記入ください。

コミュニティセンター
<ul style="list-style-type: none">○人材バンクの紹介。○各種講座の紹介。○他地区の情報の紹介。○勉強会の実施。○ホームページの勉強会。○行動を起こすには事業費が必要。行動するにあたって安心感のある後ろ盾となってほしい。○東小川児童センター・同公民館の丸亀市内児童の利用拡充を図る。○今後は高齢者対象の取り組みが増加、この枠組みの中に地域の福祉施設が参画してくることは当然の成り行きだと理解できるが、情報提供のバランスを欠かないようにお願いしたい。○老朽化しているため多様な生涯学習の拠点としての基盤となる施設整備が急務。○コミュニティが生涯学習活動を推進する上で、まちづくりなどの専門の講師や講座の一覧などがほしい。○市職員の派遣を年何回までと制限せず、保健師・理学療法士・栄養士など必要に応じて協力してほしい。○出前事業の内容(プログラム)の充実。○予算の充実。
社会教育施設
<ul style="list-style-type: none">○公民館・児童館のあるべき姿として推薦できる各種行事、講座の情報提供。○成功事例として、各種行事の水平展開。○縦割りにならない丸亀市全体の連携。

<家庭教育支援について>

問16. 家庭教育の低下が懸念されていますが、貴コミュニティでは、以下のような家庭教育支援を行っていますか。



その他、行なっている支援や今後、考えている支援など【コミュニティセンター】

- 家庭教育等を開き、保護者交流の場となればよい。
- 気軽に参加できるものを紹介してほしい。
- 夏休み・冬休みに子ども支援学習会を開催予定。昼食は食堂班が作って提供する予定(学習と食事をセットで夏休み3日間)。
- 子育て支援センターにボランティア団体から人材を派遣し、センター活動充実を共に図っている。
- 子ども食堂への協力。
- 日曜カフェ等を計画し、人の交流の場を作り対話できる環境づくりをしていきたい。
- 出前講座の活用。
- おじよもんひろば(子育てひろば)。

その他、行なっている支援や今後、考えている支援など【社会教育施設】

- 親子で参加できる事業の実施。
- マルタスキッズスペースでのおはなし会。
- ブックスタート事業、セカンドブック事業。

施設の開放、ボランティアの養成、子育て講座の実施の割合が全体的に増加していた。引き続きコミュニティや社会教育施設に来てもらいやすい環境づくりを促進していく。

<新しい生涯学習のスタイルについて>

問17. 新型コロナウイルス感染症対策として、講座などをオンラインで行うケースが増えてきましたが、貴施設ではそのような講座を実施していますか。また、今後オンラインでの講座を増やした方がよいと思いますか。

コミュニティセンター

- オンライン講座は実施していません。どのような方法で実施するのかアドバイスしてください。
- コロナ禍でコミュニティセンターの各部屋の人数を定員の半数に絞っている関係上、1部屋で実施している講座をWeb回線を通して、別会場でも同時進行できるようにした取組をはじめた。
- オンラインは高齢者には難しい。
- オンラインは人間力を下げると思う(よい面もあるが)。
- 実施していない。検討していない。
- 現時点では考えていない。
- 防災系や福祉関係についてはオンラインで講座を開講しています。移動時間等を考えるとオンラインでの講座を増やすべきと考えます。
- オンラインの設備が整っていないので実施していない。
- 講座受講実施の送り手・受け手の環境整備に要する費用負担が課題。
- オンラインでの講座実施は行っていないが、今後の感染状況次第では検討の必要があると感じている。
- 生涯学習クラブでは、実習的な取り組みが多いので考えていないが、コミュニティが行うものに関しては検討していきたい。
- オンラインで学習できる講座もデータベースとして整備していけばよい。
- 香川大学、本州四国連絡高速道路(株)が主催する島旅活性化プロジェクトにリモート会議で参加し、島の現状の説明などを行い協力している。

社会教育施設

- オンラインの講座はなし。今後も予定なし。
- 児童センターは自由来館であり、安全安心の子どもの居場所が基本。
- 香川県内高校生の演劇公演のオンライン配信。
- こども演劇の演劇公演。
- オンラインを利用した子ども講座の実施。
- 哲学対話でのオンライン利用。
- オンラインでの開催が可能な環境を整えたい。

<生涯学習推進全般について>

問18. 第3次生涯学習推進計画では、貴施設やコミュニティ等を拠点とした「生涯学習+まちづくり」を推進し、豊かで健康的な地域社会の現実を目指しています。本アンケートを通じて、貴コミュニティのこの5年間の生涯学習の取組について、今の現状や課題、日頃からお考えになっていることをご記入ください。

コミュニティセンター

- コミュニティも高齢化が加速している。その問題解決とコミュニティ・スクールの今後の進め方を地域と学校で考えていく必要がある。
- 生涯学習クラブ以外にも貸館団体が多く、年間を通して新たに入り込む余地がないのが現状。
- 生涯学習(一人ひとりが自己の人格を磨き、豊かな人生を送るための学習)と「持続可能なまちづくり」が直接どのように結びつくかという考え方が今一つ理解しがたい。
- コミュニティの講座や行事に参加されている方は人との交流が図れているが、家に閉じこもっている方やコミュニティセンターまで距離があり参加できない方の対応をどのようにするのか。
- コミュニティをいくつかの班に分けて小さい地域での活動を推進していけたらと思う。その為には、地域ごとのリーダーが必要となってくる。その道筋をつける支援を市にしてもらいたい。
- 学校と地域が密に情報交換を行っている。
- 地域のふれあいまつりが長寿会、婦人会、子ども会、生涯学習課クラブ等の協力により開催され、交流の場になっている。
- コミュニティには6つの部会があるが、活動内容については格差がある。また、新規事業はほとんど行われていない。
- ボランティアのリーダーが生まれてこない。コミュニティの意思が住民にうまく伝わっていないのかもしれない。
- クラブ活動などに参加して楽しんでいる住民は多いが、リーダーになってくれる人が見つからない(指導者がいれば参加するが、指導者にはなりたくないという人がほとんど)。
- コミュニティが新規事業を起こす場合、まずコミュニティセンターに負荷がかかってくる。仕事は増えるが直接どのように結びつくかという考え方が今一つ理解しがたい。職員は2人のままという状態である。コミュニティはボランティアだが、センター職員は給料をもらっているので仕方がないのか(新規事業はやっていきたいと思うが、キャンペーン不足は否めない)。
- 定年退職の年齢が上がり、ボランティアを始める年齢層が現役中で人が集まらない。
- 生涯学習にしても、住民の余裕が感じられなくなってきている。
- 生涯学習のクラブについては、時代とともに消えるクラブ・新しく立ち上げるクラブなど変化するもの。
- 女性部会・老人会を主体に学校支援ボランティア体制の確立、併せて同時スタートで、住民参加型の福祉事業「ささえ愛」有償ボランティア制度などを確立して、高齢者対策の一助とする。
- 3年後を目途に都市公園の整備が図られたら、センターとの一体的活用により、優れた生涯学習

の場、公園まつり他四季のイベントを展開する。

- 人間生きている限り学習は欠かせない。今後とも防災、環境、福祉、子育て、文化活動に関する学習機会を設けていきたい。
- 超高齢化と少子化が進行する中で、異年齢間交流や世代間交流、地域内外での交流など、人と人とが活発に交流する地域社会を目指す。
- 福祉のまちづくりとして、高齢者が散歩中に一息つけることのできるベンチを作り、コースの途中に設置。このベンチに絵を描くことを幼稚園、保育所の子ども、小学生児童、高校生などに、ボランティアとして参加してもらい、地域の一員としての自覚、ボランティアに対する意識の高揚を図る取組を行っている。
- 人口の減少と高齢化により、受講者の固定化や減少といった課題がある。
- どうしても高齢者が多くなるので、高齢者でも楽しく参加できる講座（講師の確保も含め）の開設等を検討する必要がある。
- 生涯学習を推進する上で、地区住民に参加してもらえそうな内容や周知方法をより検討していきたい。
- 生涯学習は学校教育のように体系的なものがない。つなげる役割を果たすコーディネーターが必要となるが、すべてボランティアでやろうとするのには無理がある。その部分は行政が全面に出るべき。
- つながりたいときにつながれるようにサポートできる体制を整えておくのが大切。また、個人や団体が自ら他とつながりを持ちたいと思えるような環境づくりの充実が、持続可能なまちづくり実現につながるのではないか。
- 本島幼保、本島小中では地元の文化財を見学するなどの課外授業や島内のイベントに子どもたちに参加してもらうことで、郷土愛を育み、島民と積極的に関わる機会を提供している。それにより、地元の良さを感じてもらい、UI ターンなどによる「まちづくり」に少しでもつながることを願っている。

社会教育施設

- 児童館、公民館に求められることは何か？
著書【児童館：理論と実践】の内容を分析・区分し出来ることから始め、行事運営に力を注いだ。
- 創成期⇒成長期⇒成熟期へと成長を遂げているが、衰退期に入らないように行事の見直し、新規事業の取り組みは必要不可欠。
- 各児童館、公民館との連携、情報交換ネットワーク作りが大切。
- 成功事例の水平展開。
- 「つなげる」ことについては十分な成果を上げることはできなかった。